

もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【鳥取県漁業協同組合:境港地域プロジェクト】

実証期間:平成21年9月1日～平成24年8月31日

大口徑プロペラを備えた低抵抗船型の改革型漁船(ベニズワイかにかご漁船122ト)を用船し、省エネ、省コスト化による生産コストの削減、滅菌海水及びシャーベット海水氷による漁獲物の高鮮度化などにより生産金額向上、資源回復計画に基づく資源管理の実施等を骨子とする収益性改善の実証事業を実施した。

実証項目

【生産に関する事項】

- ①生産コストの削減(燃油)
(燃油消費量目標13%減)
- ②生産コストの削減(氷)
- ③漁獲物の高付加価値化

【流通・販売に関する事項】

- ①高鮮度出荷
- ②荷役労働の改善
- ③販路の拡大



実証結果

(実績値は3カ年平均)

【生産に関する事項】

- ①低抵抗船型・大口徑プロペラの導入により燃油消費量19.1%削減
- ②改革型漁船にシャーベット海水氷製造装置を導入することにより氷使用量16.9%削減(同規模従来船比)
- ③・船上での滅菌海水装置とシャーベット海水氷の使用による魚価向上
平均販売単価従来船比3.1%高

【流通・販売に関する事項】

- ①・漁獲物陸揚げ時の品質管理の徹底
・生鮮向け小ロット製品(6kg発砲箱)の生産による単価向上は見られず。
- ②傾斜レールとアルミ製台車の導入でコンテナの床面接触を回避することにより荷役労働を改善、境港地区の全船に導入が波及
- ③・「境港新かにめし」のイメージキャラクターを導入しPR活動実施
・イベント「みんなが選ぶ境港水産加工大賞」にべにずわいがこの加工品を出展し、入賞した加工品の販路ルートを確立

収益性の改善について

上記のとおり実証項目について、一定の成果を得た。その結果、3年間を通し水揚量は概ね計画通りとなったがべにずわいがこの市場価格が低迷したことにより水揚金額は計画に達しなかった。生産コストのうち燃油代については計画以上の削減が見込め、全体としても収益性の改善が可能であることを確認した。

また、べにずわいがこの普及を図るため県内外の各種イベントに参加し試食提供を行うとともに、料理教室を開催し家庭での消費拡大に努めた。実証事業終了後も、引き続き消費拡大に努め魚価の安定を目指すとともに、この取り組み結果を活かし更なる収益性の改善を図れるよう努力し、成果の普及啓発を図っていく。

境港新かにめし

